

平成30年度「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」結果から見た本校の課題等

<p>教育方針 学校経営</p>	<p>教育目標・方針については保護者からは共感を得ているものの、その実現や説明に関しては否定的な評価が多い。しかも過去3年間を通して低迷が続き、肯定的評価が低下している項目も見られる。本校には教育目標に関係するものが複数あり、その整合性がとれていない上に現実に合わない抽象的な目標もありその抜本的見直しが急務である。</p> <p>一方、登校する意義や意欲に関する項目では生徒・保護者ともに肯定的評価が高く、本校の教育活動が受け入れられていることを伺わせる結果となっている。ただし過去3年間で生徒の肯定的評価が低下しており、この結果をどう維持するかが課題といえる。</p>
<p>家庭との 連携</p>	<p>ほとんどの項目で肯定的評価が高い値を示している。このことは、「すぐメール」やHPによる情報発信が成功している証拠と捉えられる。防災や行事予定、生徒の活躍・活動などを小まめに発信したことが奏功したと思われる。今後もより質の高い情報発信を目指したい。</p> <p>ただし、学年通信に関する保護者の評価項目や通信やHP、家庭での話題に関する生徒の評価項目で、否定的評価が高いことは、前段の好評価からすると特異にうつる。今一度通信の在り方や配布について見直す必要があると思われる。</p>
<p>教職員</p>	<p>保護者は概ね肯定的評価が高いのに対して、生徒は否定的評価が高く肯定的評価の低下が目立つ。この差は保護者が電話、ホームページ、メール配信、通信などをもとに判断しているのに対して、生徒が主に授業での教職員を評価していることに起因していると考えられる。この結果を重大に受け止めなければならない。特に、一人一人の教員の授業力向上に向け抜本的な見直しが必要である。</p> <p>具体的には、同僚性を高めるための取組が効果的と考える。研究授業や授業デザイン組み立ての際の協働などを促進するなど、教育目標の見直しを併せ教育課程の在り方を見直す「カリキュラムマネジメント」の導入を図りたい。</p> <p>また、評価の中には学年進行で肯定的評価が高まる項目がある。それは個別指導に関する項目であることから、進路指導や受験指導も含めた教員の力量形成にも着目したい。</p>
<p>学習指導</p>	<p>生徒・保護者の評価は昨年と比較してあまり変化が見られない。単位制に移行し、1年次では全ての授業が少人数で行われているのだが、その事が当事者に自覚されておらず、生徒用No13、保護者用No16「習熟度別・少人数授業」の項目の数値にもほとんど変化がない。保護者No17「能力に応じた指導」で1年次の保護者に「わからない」が多く、これがNo16の結果にも結びついていると思われる。1クラスあたりの1年生の生徒数は昨年度より10人近く人数が少ないため、一人一人に目が届きやすく、生徒の学習状況が把握しやすいと少人数授業の効果を実感している声が聞かれる。</p> <p>No14「総合学習」については昨年度大きくマイナスになって、そのままの状況が続いてしまっている。生徒に意義を十分に理解させていくことが大切である。また、これまで月曜7限に「総合的な学習の時間」が設定されていたため、取り組みが飛び飛びになってしまいうこともマイナスの要因と考えられる。来年度は新学習指導要領により「総合的な探究の時間」となることもあり、木曜6限に授業を設定し、コンスタントに探究活動が行えるようにしていく。</p>

生徒指導	<p>生徒・保護者評価ともに多くの項目において肯定的評価が70%前後で推移しており、落ち着いた学校生活を送っている生徒の姿が数値に現れている。共通意識による全職員の協力体制、継続的指導の成果と思われる。</p> <p>課題であった「あいさつ」については、校長先生主導による、校門でのあいさつ指導により回復傾向にある。次のステップにつなげていきたい。</p> <p>いじめ問題・教育相談については相変わらず「わからない」の回答が多いが、教育相談体制は早期対応、SCや外部連携など組織的かつ機能的に対応できている。近年、問題を抱える生徒が増え、その問題も多様化し担当の負担が重くなっていることが課題としてある。</p> <p>今後も報告・連絡・相談(ほうれんそう)による情報共有と生徒指導、教育相談、特別支援を意識した組織的対応を基本に推進していく。</p>
進路指導	<p>「総合的な学習の時間」について、1年生生徒の「A,B」評価が特に低い。さらに1年生の26%が「わからない」と回答。1年生では教科分担での総合的な学習の内容が十分に認知されていない。年度初めにガイダンスを実施したが、それだけでは十分でないことがわかった。来年度は「総合的探究の時間」として今まで以上の内容の充実が求められるため、運営方法と内容の改善を図りたい。</p> <p>「サタスタ・補習」に関する項目での評価が低調であった(生徒・保護者とも)。教員の指導力に対する信頼感も低下しているような結果が見受けられることから、実施方法の見直しとともに、教員の指導力向上を図る工夫も必要である。また学年別で見ると、2年生徒の回答に「A」評価が少ない。学習指導や進路指導が生徒の実態とかみ合っていないのではないか。3年生進級前に学年団と協力し、生徒が望む進路を実現できるよう適切な道筋を示すことが必要である。</p> <p>情報提供等については、過去3年にわたり進路説明会や進路講演会等の機会を増やしてきた成果もあり、少しずつではあるが評価が上昇傾向にある。今後は更なる内容の充実を図っていきたい。</p>
健康管理 安全指導	<p>地震や台風などの対策マニュアルの周知について、肯定的回答は生徒68%(前年度比-3%)、保護者84%(前年度比+2%)であった。生徒、保護者ともに前年度並みではあるが、例年通り生徒の肯定的回答が保護者と比較し低い。特に生徒については、HPや配布物等を工夫し周知を図るとともに、災害についての危機感や関心自体を高めていくことが必要。</p> <p>校内美化・設備について、肯定的回答は生徒53%(前年比+5%)、保護者69%(前年比-1%)であった。昨年まで50%を下回っていた生徒の校内美化についての肯定的回答が50%を超えたことは評価できる。ただ、自分たちが毎日生活し、毎日清掃している環境に対し、半数近くの生徒が「清掃がいきとどいている」と回答できないことは問題でもある。今年度、防災美化委員に対し、廊下掃除のマニュアル講習や大掃除の徹底など一定の効果があった取り組みは引き続き行い、全校体制で校内美化への意識が高まるよう啓発等実施していきたい。</p>

<p>学校行事等</p>	<p>「部活動」について、活発に行われていると回答した割合(AB評価)が3年間で保護者、生徒ともに7%減となっているが、生徒76%、保護者80%の数字からすると活発に行われていると読み取ることができる。また部活動の加入率は2年生93.7%、3年生94.3%と高く、生徒の部活動に対する意識は高いと考えられる。一方で、「学習と部活動の両立」に関する質問項目では、ABの肯定的評価が保護者で64%、生徒で48%であり、生徒と保護者で捉え方に差がある。数値の改善とともに「文武両立」の実現のために、学習と部活動のどちらに偏りすぎているのかを見極めながら、改善を図る必要がある。その上で今後の部活動のあり方について、働き方改革や国や県によるガイドラインを踏まえながらも、学校の特性が活かせる形を検討していかなければならない。</p> <p>ボランティアに関する生徒の評価が上がった(生徒+7%、保護者±0%)ことは、1部活1ボランティアの実施や、個々のボランティアに対する意識の高まりが見られる結果と言える。</p> <p>学校行事について、生徒のAB評価は84%と高く、保護者でも77%を占める。生徒に対する行事後のアンケートの結果は次の通りである。スポーツ交流大会96%(とても充実61%、まあまあ35%)、桔梗祭98.7%(とても充実していた69.2%、まあまあ29.5%)、球技大会97%(とても満足59%、やや満足38%)とすべての行事で95%以上の生徒が「充実(満足)」と回答している。今後もこのような学校行事を生徒主体で運営していきたい。また、本校での生徒会活動について、活発であるとの回答が+7%で、行事の運営に対する評価としても95%以上が生徒会の運営を高く評価(桔梗祭99.1%、スポーツ交流大会95%)している。また、ホームページの積極的な更新や生徒会新聞の発行など広報活動の成果でもありと考えられる。</p>
<p>学校独自項目</p>	<p>学習指導に関する項目では、生徒・保護者ともに否定的評価が高い項目が多い。家庭学習やサタスタ・補習の在り方、アクティブラーニング(以下「AL」)の意義についてその傾向が見られる。これらは上記の学習指導や教職員の項目と符合する。授業の在り方を見直すことで教員の力量向上に取り組んでいきたい。</p> <p>なお、ALについてはこの質問項目だけで成否を評価するのは早計である。別個に行ったALの評価では肯定的評価が高いものもあるし、本アンケートの班活動に関する項目では肯定的意見が高い。大切なのはALは授業の全てではないことと、特定の教員の力量に依存しない取組となることと考える。その意味でALの取組は前述した「カリキュラムマネジメント」の取組に発展していくことが不可欠と考える。</p> <p>一方、生徒指導に関する取組では学習指導と対照的な結果が得られた。生徒・保護者ともに情報モラルや遅刻指導、挨拶指導で肯定的評価が高く、過去3年間での向上も見られる。もちろんこの結果も上記の生徒指導の項目の評価と符合している。これらは、生徒指導をはじめとした全職員の取組が奏功したものと受け取られる。ただし、これらの項目で学年進行に伴い肯定的評価が低下していることは、初期指導をいかに継続して自己教育力や自律力に繋げるかという課題として受け止めなければならない。</p> <p>なお、朝読書の項目も過去3年間で一貫して好評価を得ている。朝読書は生徒・学習指導両面に関わる活動であり、こうした活動やその受け止めを教育活動全体にどう生かしていくかという視点も大切にしたい。</p>